

2020年9月30日

## 二次電池用正極材（ニッケル酸リチウム）増産 および電池研究所の拡張について

住友金属鉱山株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：野崎 明）は、自動車の電動化が進展することに伴う車載用二次電池の需要拡大に対応するために、二次電池用正極材であるニッケル酸リチウムの増産を行うとともに、次世代電池材料の開発強化のため研究所の拡張を実施することといたしました。

世界的な環境規制強化を背景に自動車の電動化が進む中、長距離走行を可能とする高性能な二次電池の開発、供給に対する期待が市場で高まっています。当社の電池材料はその有力材料として、今後さらなる需要の拡大が見込まれる製品です。

当社は、二次電池用正極材の生産拡大を進めてまいりましたが、このたび、磯浦工場（愛媛県新居浜市）における周辺設備の増強等によりニッケル酸リチウムを増産することとしました。これにより当社のニッケル酸リチウムの生産能力は、2022年半ばより4,550トン/月から4,850トン/月に増加します。

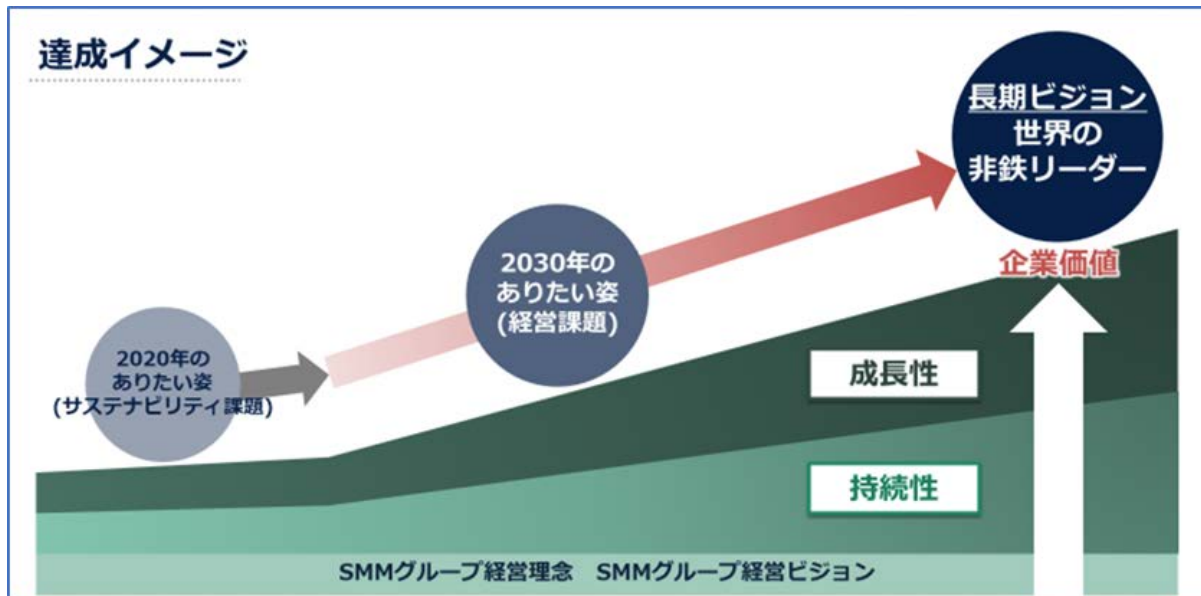
このたびは建屋面の制約から限定的な増産に留まりますが、二次電池用正極材の需要拡大に向けて今後は既存工場の拡張だけでなく、「2030年のありたい姿」の重要課題「従業員の安全・衛生」の主要施策にも掲げているスマート化（リモート・自動化）を取り入れた新工場の建設も視野に入れてまいります。

また、次世代の高性能ニッケル正極材や全固体電池用正極材料の開発を目的とした電池研究所（愛媛県新居浜市）の拡張・設備拡充についても2022年7月完成目途で実施いたします。これにより、世界中で研究開発が急速に進む次世代電池材料への市場ニーズに応えてまいります。

今後も当社は、顧客要望や市場需要を見極めながら適切なタイミングで投資を行い、2024年中期経営計画（対象年度：2025年度～2027年度）における電池材料事業の目標である「電池正極材・月産1万トン体制の構築」を目指してまいります。また、この電池材料事業の拡大を通じて、「2030年のありたい姿」の重要課題「気候変動」のありたい姿にて掲げている「温室効果ガス（GHG）排出量ゼロに向け、排出量削減とともに低炭素負荷製品の安定供給を含めた気候変動対策に積極的に取り組んでいる企業」の実現に向けて取り組んでまいります。

※参考

- ・「2030年のありたい姿」：達成イメージ



- ・「2030年のありたい姿」：11の重要課題とありたい姿

重要課題	ありたい姿
1 非鉄金属資源の有効活用	高い技術力で資源を生み出す企業 1. 非鉄金属を安定して社会へ供給する企業 2. 産学官と連携したオープンな技術開発で、不純物を有効活用して社会に貢献する企業 3. 非鉄金属の循環システムの構築と維持に貢献する企業 4. 社会課題の解決に貢献する高機能材料の開発・供給を行う企業
2 気候変動	温室効果ガス（GHG）排出量ゼロに向け、排出量削減とともに低炭素負荷製品の安定供給を含めた気候変動対策に積極的に取り組んでいる企業
3 重大環境事故	水資源や生物多様性を大切に海や陸の豊かさを守っている企業
4 生物多様性	

重要課題	ありたい姿
5 従業員の安全・衛生	快適な職場環境、安全化された設備と作業のもと、すべての従業員が、ともに安全を最優先して仕事をしている企業
6 多様な人材	すべての従業員が生き生きと働く企業
7 人材の育成と活躍	1. 従業員一人ひとりの人間性を尊重し、従業員が誇り・やりがい・働く喜びを持てる企業 2. 従業員一人ひとりに能力向上の機会を提供し、従業員とともに成長する企業
8 ステークホルダーとの対話	「世界の非鉄リーダー」であると理解され、共感される企業
9 地域社会との共存共栄	地域社会の一員として地域の発展に貢献し信頼を得る企業
10 先住民の権利	先住民の伝統と文化を理解し尊重する企業
11 サプライチェーンにおける人権	サプライチェーン全体でCSR調達(Responsible Sourcing)に取り組んでいる企業

本件に関するお問合せ先

住友金属鉱山株式会社 広報IR部 東京都港区新橋 5-11-3 新橋住友ビル

TEL: 03-3436-7705 Eメール: [smm\\_koho@smm-g.com](mailto:smm_koho@smm-g.com)